

朝日ライフ S R I 社会貢献ファンド

愛称〔あすのはね〕

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第23期(決算日2023年9月20日)

作成対象期間(2022年9月21日～2023年9月20日)

第23期末(2023年9月20日)	
基準価額	10,059円
純資産総額	4,510百万円
第23期	
騰落率	11.8%
分配金(税込み)合計	170円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しています。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。運用報告書(全体版)は、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記ホームページの「ファンド情報」等から当ファンドのファンド名称を選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧・ダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「朝日ライフ S R I 社会貢献ファンド」は、このたび、第23期の決算を行いました。

当ファンドは、国内の上場株式を主要投資対象とし、ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献する企業の株式に投資し、中長期的な視点に立って価値の成熟と株価の上昇を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも、一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

東京都杉並区和泉一丁目22番19号

<お問い合わせ先>

ホームページ：<https://www.alamco.co.jp/>

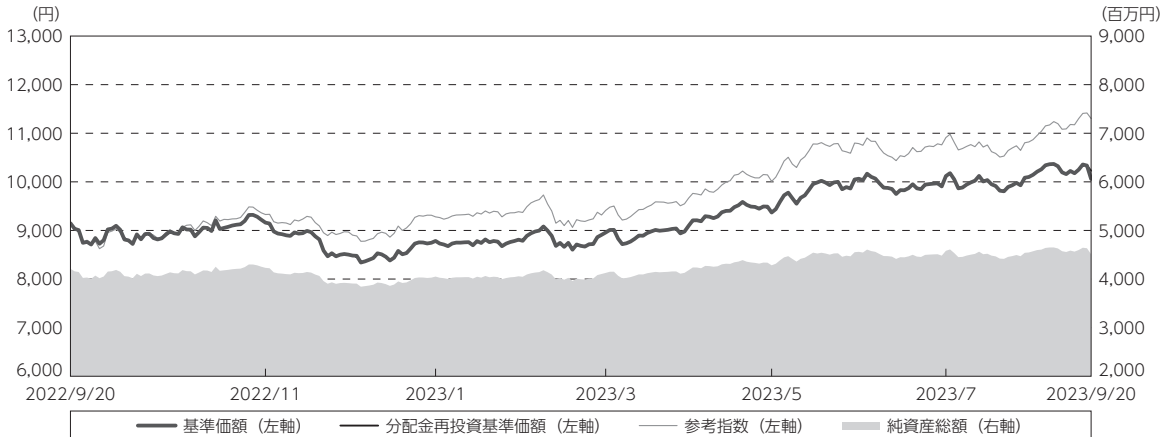
フリーダイヤル：0120-283-104

〔受付時間〕 営業日の午前9時～午後5時

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年9月21日～2023年9月20日)



期 首：9,148円

期 末：10,059円 (既払分配金(税込み):170円)

騰落率：11.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)です。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

○基準価額の主な変動要因

期初から2023年3月にかけての前半期には、米国でのインフレ鈍化の兆し、為替市場での円安進行、中国でのゼロコロナ政策の解除などが主な上昇要因となった一方、日銀による長期金利の許容変動幅拡大が事実上の利上げと受け止められたこと、米国の銀行の経営破綻による信用不安などに加えて、保有銘柄の業績見通しの悪化などが下落要因となりました。

一方、4月から9月までの後半期では、日銀による大規模な金融緩和策の維持と為替市場での円安進行、国内企業の堅調な業績見通しや積極的な株主還元の発表、新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたこと、米国でインフレ懸念が後退したことなどに加えて、保有銘柄の業績見通しの改善が上昇要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2022年9月21日～2023年9月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	181	1.958	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(112)	(1.210)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(61)	(0.660)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(8)	(0.088)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.075	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際に支払う手数料です。
(株 式)	(7)	(0.075)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.007	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用です。
(そ の 他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	189	2.040	
期中の平均基準価額は、9,231円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます。)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

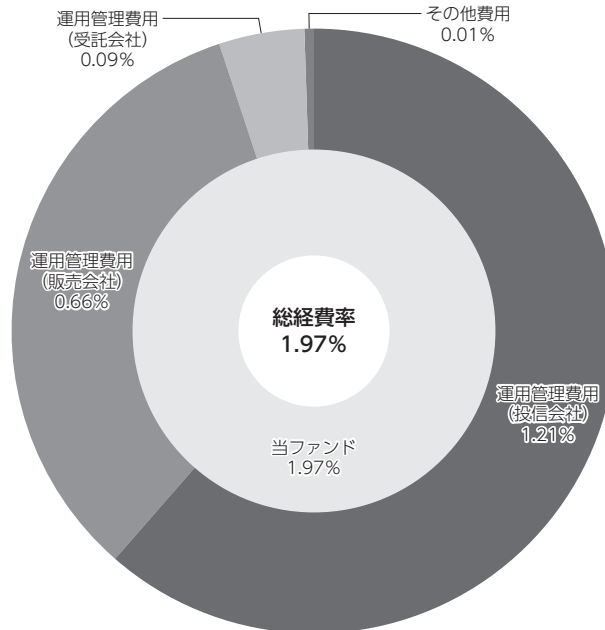
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます。)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.97%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

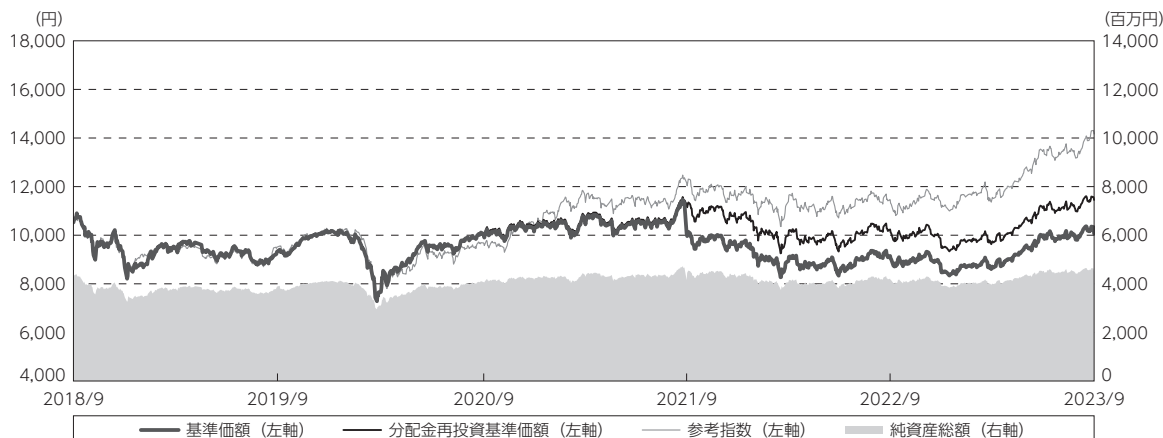
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年9月20日～2023年9月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2018年9月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)です。

	2018年9月20日 決算日	2019年9月20日 決算日	2020年9月23日 決算日	2021年9月21日 決算日	2022年9月20日 決算日	2023年9月20日 決算日
基準価額 (円)	10,525	9,336	10,008	10,068	9,148	10,059
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	90	1,100	0	170
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 11.3	8.2	11.6	△ 9.1	11.8
参考指数騰落率 (%)	—	△ 9.6	1.7	25.6	△ 5.7	23.6
純資産総額 (百万円)	4,135	3,890	4,068	4,153	4,210	4,510

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。
- (注) 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)です。

投資環境

(2022年9月21日～2023年9月20日)

当期の株式市場は、2022年12月までは、米金融引き締めペースの鈍化の見通しや為替市場での円安進行などを背景に強含みの展開となりました。2023年の年明けから3月にかけても、米国でのインフレ鈍化の兆しや、中国でのゼロコロナ政策の解除による景気の押し上げ期待を背景に、堅調な相場展開が続きしました。

4月以降については、日銀が金融緩和の維持の決定、為替の円安進行、国内企業の堅調な業績見通し、積極的な株主還元、新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたことに伴う経済活性化期待により、大きく上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年9月21日～2023年9月20日)

期初から2023年3月までの前半期では、為替市場での円安進行などを背景に株式市場は底堅く推移したものの、保有銘柄の業績見通し悪化による株価下落により、基準価額は軟調に推移しました。個別銘柄ではプレミアグループ、オリンパス、丸井グループ等の株価下落がマイナスに寄与しましたが、ニトリホールディングス、住友林業、芝浦電子等の株価上昇がプラスに寄与しました。

後半期に入ってから株式市場が上昇基調となる中、好業績銘柄を中心とした株価上昇が基準価額を押し上げました。個別銘柄ではカチタス、オリンパス、オイシックス・ラ・大地等の株価下落がマイナスに寄与しましたが、豊田通商、住友林業、トヨタ自動車等の株価上昇がプラスに寄与しました。

当ファンドでは投資先の企業価値の向上は、中長期的な投資リターンの拡大にとって最も重要な要素であると考え、持続的な成長が期待できる市場で、ステークホルダーを味方につけて競争優位を構築し、企業価値向上の観点から株主と経営のベクトルが一致しているサステナブルな企業への選別投資を行いました。その一方で、株価が上昇し割高な水準に達した銘柄や、調査の結果、業界の魅力度や競争優位性が低下したため将来に向けて企業価値の拡大が難しくなったと判断した銘柄を売却することで、ポートフォリオの魅力度を一層高めました。

この結果、当期において味の素、オムロン、東京応化工業、小松製作所、カチタス等を新たに組み入れました。一方、フジミインコーポレーテッド、S O M P Oホールディングス、ニトリホールディングス、小糸製作所、大成建設等について保有株式をすべて売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

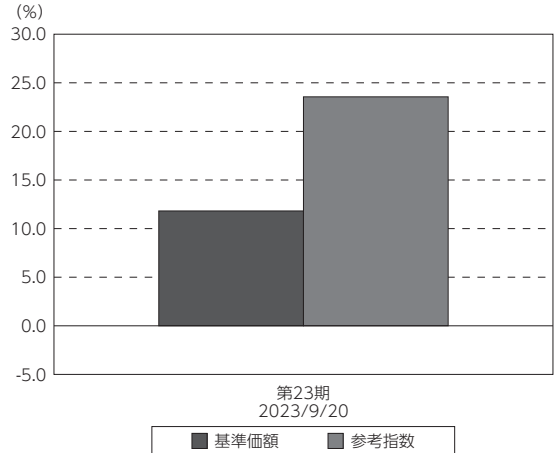
(2022年9月21日～2023年9月20日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークはありません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数が23.6%上昇したのに対し、基準価額は11.8%の上昇となり、参考指数を11.7%下回る結果となりました。当期の株式市場は、景気回復や為替市場での円安進行を背景とした業績見通しの改善が続く中、特に景気動向に影響を受けやすい大型の割安株が上昇を主導する展開となりました。そうした中、当ファンドのポートフォリオ特性として収益性や財務基盤が強い企業の保有が多く、反対に景気感応度の高い割安株の保有比率が低いことや、保有銘柄の一部で業績見通しが悪化したこと等が、参考指数に対して劣後する要因となりました。

基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込み(税込み)です。

(注) 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)です。

分配金

(2022年9月21日～2023年9月20日)

当期の分配金につきましては、収益分配方針に基づき、基準価額水準などを勘案して、1万口当たり170円とさせていただきます。

なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第23期
	2022年9月21日～ 2023年9月20日
当期分配金	170
(対基準価額比率)	1.662%
当期の収益	170
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	868

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益および当期の収益以外は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計した額が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドの運用の特色は、短期的な業績動向だけでなく、中長期的な視点に立った企業価値分析を行うことにあります。特に財務的要素に加えて、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)といった非財務的要素を統合した分析を行うことで、その企業の本質的価値とそのサステナビリティ(ESG要素を含む中長期的な持続可能性)を見極めていきます。

企業価値分析においては、サステナビリティを考慮する際に、企業価値に影響を与える重要なESG課題に焦点を当てます。企業活動に関係するESG要素は多岐に渡りますが、当該企業が行う事業(業種)や戦略にどのようなビジネス機会やリスクをもたらすかという観点から、課題を特定し分析を行います。

今後も投資先の企業価値の向上は、中長期的な投資リターン拡大にとって最も重要な要素であると考え、持続的な成長が期待できる市場で、ステークホルダーを味方につけて競争優位を構築しているか、企業価値向上に向けて株主と経営のベクトルが一致しているかといった観点から、投資先企業の選定を行います。

また、特定のベンチマークや市場のトレンドへの追随は意識せず、ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献するサステナブルな企業を厳選し、安い株価で集中度を高めて買い、企業価値の成熟と株価の上昇を狙う運用を行うことで、高い投資成果の獲得を狙います。

お知らせ

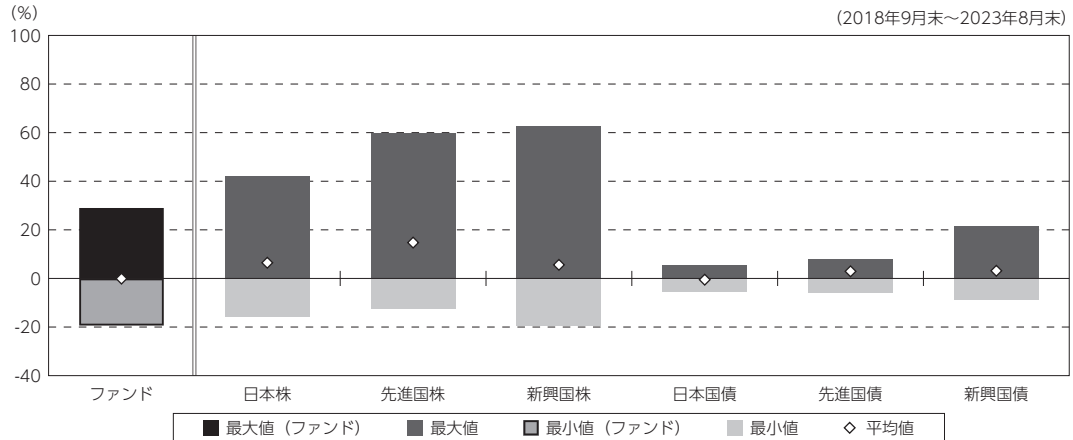
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限
運用方針	株式への投資により、信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行います。
主要投資対象	国内の上場株式
運用方法	ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献する企業の株式に投資します。個別企業調査を基本としたボトムアップ・アプローチを重視した銘柄選択を行います。
分配方針	毎決算時(9月20日。休業日の場合は翌営業日)に、利子、配当収入および売買益などのうちから、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないこともあります。

(参考情報)

○ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	29.0	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 19.4	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	△ 0.1	6.5	14.8	5.6	△ 0.5	2.9	3.2

グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注) 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年9月20日現在)

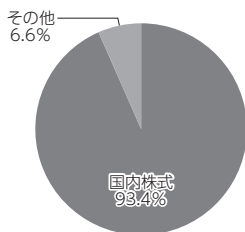
○組入上位10銘柄

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	トヨタ自動車	輸送用機器	円	日本	4.4
2	豊田通商	卸売業	円	日本	4.2
3	住友林業	建設業	円	日本	4.2
4	三和ホールディングス	金属製品	円	日本	3.8
5	積水ハウス	建設業	円	日本	3.5
6	ブリヂストン	ゴム製品	円	日本	3.5
7	東京応化工業	化学	円	日本	3.1
8	ショーボンドホールディングス	建設業	円	日本	3.0
9	味の素	食料品	円	日本	3.0
10	メイテック	サービス業	円	日本	2.9
	組入銘柄数		39銘柄		

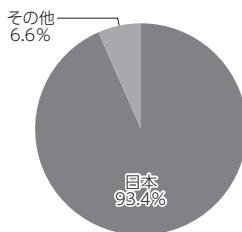
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

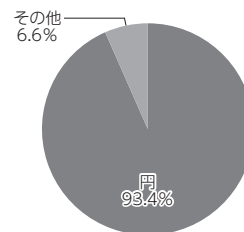
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

純資産等

項目	第23期末
	2023年9月20日
純資産総額	4,510,132,528円
受益権総口数	4,483,890,784口
1万円当たり基準価額	10,059円

(注) 期中における追加設定元本額は160,441,235円、同解約元本額は279,448,789円です。

(参考情報)

○社会貢献活動を行う団体への寄付につきまして

当ファンドでは毎年、地域社会への貢献を目的として、信託報酬の一部(日々の信託財産の純資産総額に年0.1~0.2%の率を乗じて得た金額)を、社会的課題に取り組む団体に寄付しています。

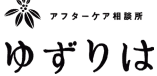
寄付先団体は主に、「社会福祉」「医療・健康」「教育」「環境」「児童支援」「女性支援」等の分野で活動する団体の中から選定しています。

なお、選定にあたっては、各団体の取組課題のユニークさや社会的な必要性、団体としての独立性等を重視するとともに、近年はSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成への取組状況も加味しています。

【今期(第23期)寄付先のご紹介】

今期(第23期 決算日2023年9月20日)は信託報酬の中から総額4,222,446円を以下の7団体に寄付しました。

(五十音順)

安心と楽しいを一緒に育む	
アフターケア相談所 ゆずりは (社会福祉法人 子供の家) https://www.acyuzuriha.com/	
《団体概要》 「アフターケア相談所ゆずりは」は、児童養護施設や里親のもとを巣立った人や、虐待や貧困等の理由から親や家族を頼れず孤立している人たちへの支援を行う相談所です。住まいや、仕事、病気、様々な困りごとの相談を受け、生活保護の申請の補助、病院や不動産屋への同行等も行っており、ひとりひとりの相談者に寄り添っていくことを大切にしています。個別の相談対応の他に、「ゆずりは」の場所を拠点に、気軽に集えるサロンや、働く場として「ゆずりは工房」でのジャムづくり、高卒認定資格取得のための無料学習会、みんなでごはんの会、子どもへの不適切な行為をやめたい親を対象とした「MY TREEペアレンツ・プログラム」なども実施しています。「自分なんか生まれてこなければよかった」「生きている価値がない」と苦しみを抱えているひとたちが、出会い、つながり、安心できる時間を積み重ねていくことで、自分の暮らしを楽しみ、大切にできる気持ちが芽生え育まれていくことを大切に活動しています。	
《SDGs目標》 1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を	

海を通じて、自然との共存を学び、確立します

特定非営利活動法人

OWS

(The Oceanic Wildlife Society)

<https://www.ows-npo.org/>

《団体概要》

OWSは1998年に設立した海の環境NPO法人です。海をとりまく自然とそこにすむ生き物を通して、「自然に親しむ・自然を学ぶ・自然の大切さを伝える」活動を推進しています。

現在、主に次の4プロジェクトに取り組み、さまざまな連携や協働を創出しています。

◆海の子プロジェクト：海離れ、自然離れが著しい現在、自然体験学習を通して子どもたちに海の自然や生き物とのふれあいの機会を創出しています。これまで3,200名以上の子どもたちが参加しています。

◆サンゴ調査プロジェクト：研究者との連携による、温暖化の影響評価のためのサンゴおよび魚類のモニタリング調査等を全国10以上の海域で実施しています。

◆海洋ごみプロジェクト：学校等への教材提供、講演、写真資料展、ごみ回収活動等、毎年5,000人以上を対象目標とする海洋ごみ削減の普及啓発を実施しています。

◆干潟保全プロジェクト：研究者、地元住民等多様な主体と連携・協力して行う希少干潟環境の保全活動です。紀伊半島、三浦半島を中心に黒潮流域の各干潟での調査も実施しています。

《SDGs目標》

14.海の豊かさを守ろう

すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現を目指しています

認定特定非営利活動法人

キッズドア

<https://kidsdoor.net/>

《団体概要》

認定NPO法人キッズドアでは、2007年の設立以来「日本の子どもの貧困」に取り組んでいます。生まれてきた環境や災害などによって、子どもたちの将来の夢や希望に不平等が生じる社会はおかしい、困難な状況にある子どもたちにもフェアなチャンスのある社会を作りたいという想いで活動しています。

キッズドアが関わる子どもたちは、ご家庭の収入が厳しいため十分な教育が受けられず、進学や就職も不利となり、子どもたちが親世代になった時にもこの状況は連鎖してしまいます。この「連鎖」を断ち切るために、東京、宮城を中心に無料の学習支援や、子どもたちが毎日過ごせて食事の提供も行う居場所の運営を行っています。2022年度は、国内84拠点で学習支援や居場所を提供し、2,030人の小学生から高校生世代のお子さんに通っていただきました。本事業の学習支援には1,384人も市民ボランティアの皆さんに関わっていただき、継続的に活動することができています。

《SDGs目標》

1.貧困をなくそう

4.質の高い教育をみんなに

子どもの虐待防止に取り組む専門の民間相談機関

社会福祉法人
子どもの虐待防止センター

<https://www.ccap.or.jp/>



《団体概要》

社会福祉法人子どもの虐待防止センター(CCAP)は、1991年から主に家庭内で起こる子どもの虐待防止のために活動する民間の団体です(社会福祉法人認可は1997年)。当法人は、設立時より子どもを虐待から守るためには家族へのサポートが重要であることを活動の柱に据え、子育てに悩む親を対象とした電話相談や母親グループ[MCG(母と子の関係を考える会)]のほか、当法人の2つの独自プログラムである「CCAP版 親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム®」と「アタッチメント形成のための心理療法プログラム」を行っています。また里親・養親支援事業、研修とともに、公益事業として児童精神科を中心としたクリニックを開院しました。

虐待は子どもの人生に深い影を落とします。親もまた困難を抱えて苦しんでいることも多く、親を責めるだけでは問題は解決しません。私たちは民間の相談窓口として多くの方にご利用頂くとともに、活動を通じて温かいサポートの必要性を社会に発信していきます。

《SDGs目標》

1. 貧困をなくそう
3. すべての人に健康と福祉を
10. 人や国の不平等をなくそう
16. 平和と公正をすべての人に

自然環境の復元と、ヒトが心豊かに暮らせる地域社会の創造

認定特定非営利活動法人
自然環境復元協会

<https://narec.or.jp/>



認定NPO法人

自然環境復元協会

Association for Nature Restoration and Conservation, Japan

《団体概要》

多様な生き物と共に暮らす社会を目指し、「身近な自然環境を復元すること。」「自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。」を使命に、日本国内にて主に3つの事業を行っています。

◆ふるさと未来創造プロジェクト

多くの農村が過疎化などの問題を抱えています。都市と農村を結びつけ協働することで、農山漁村の生態系を豊かにすることや、地域の問題解決と活性化を目指しています。

◆環境再生医制度

環境再生医の資格制度を運営しています。「自然環境」と「自然とヒトの関係」の再生を目指すSDGs視点の環境人材を、育成・支援しています。

◆レンジャーズプロジェクト

若手のボランティア希望者が地域の環境保全団体へお手伝いに行く環境保全ボランティアです。ボランティア希望者が環境活動を始めるきっかけを創出し、高齢化や人手不足などで困っている環境保全団体の課題解決を目指します。

《SDGs目標》

2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任・つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
15. 陸の豊かさも守ろう
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

自然とともに生きる社会づくりの推進

特定非営利活動法人
樹木・環境ネットワーク協会
[愛称：聚(しゅう)]

<https://www.shu.or.jp/>



《団体概要》

持続可能な社会を目指し、人と自然の調和のための活動を行っているNPO団体です。「森を守る」、特に里山を通じて自然との関わりを取り戻し、そこで活動する「人を育てる」活動も行っています。そして、社会へつなげるための「森と人を繋ぐ」をテーマに、企業や行政と連携し、子どもたちの環境教育的活動や森づくり活動を推進・普及しています。

「森を守る」・・・全国で定例的な整備・保全活動を進めています。里山をモデルに、人が自然に手を入れ、利用することでより豊かな自然環境を維持することができるような活動を目指しています。

「人を育てる」・・・グリーンセイバー資格検定を軸に、セミナーや研修会等、環境活動を推進する人材の育成を行っています。

「森と人を繋ぐ」・・・社会への普及啓発を目的に、観察会や自然体験活動の企画運営をしています。行政と連携した緑地の保全活動や、企業の社会貢献の提案や活動の受入れなども行っています。

《SDGs目標》

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 8. 働きがいも経済成長も
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 15. 陸の豊かさを守ろう
- 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指しています

特定非営利活動法人
モンキーマジック

<https://www.monkeymagic.or.jp>



《団体概要》

「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、国内で18年以上にわたり、障害のある児童生徒・大人を対象としたクライミングスクール、そして障害のある方もない方も共に楽しめる交流型クライミングイベントの定期的な企画運営、講演会や体験会を実施しています。

クライミングは障害の有無に関係なく、同じ場所で同じルールで楽しむことができます。健常者と障害者が「助ける・助けられる」の関係ではなく、同じクライミング仲間として関わり、互いに壁を取り払い、理解しあうことで、多様性を認め合える価値ある機会となります。

障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく、それぞれの人が社会の一員として支え合う中で、安心して暮らし、一人一人が自分らしく生き、持てる力を発揮して元気に暮らすことのできる社会を目指しています。

《SDGs目標》

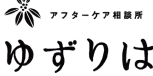
- 3. すべての人に健康と福祉を
- 10. 人や国の不平等をなくそう


※上記7団体は、第23期計算期間にかかる金額を寄付させていただいた団体であり、第24期計算期間以降については、上記団体に寄付を行うとは限りません。

【前期(第22期)寄付先からの活動報告】

前期(第22期 決算日2022年9月20日)に寄付を行った7団体から、以下の通り活動報告がありました。

(五十音順)

安心と楽しいを一緒に育む	
アフターケア相談所 ゆずりは (社会福祉法人 子供の家) https://www.acyuzuriha.com/	
《活動報告》 今年度のあすのはねのご寄付は、就労支援の一環として開催している「ゆずりは工房」でのジャム作りに活用させていただきました。ゆずりはの相談者の中には、虐待被害者やヤングケアラー状態でなんとか生きてきた多くの若者がいます。当初の相談では、生活困窮やネグレクト等の虐待被害であっても、支援を進めて行く中で、幼い頃からヤングケアラー状態であったことが明らかになるケースがあります。ヤングケアラーであった人は、相談機関にたどり着けても、安心な心の状態を取り戻すことは容易ではありません。長きにわたって、子どもとしてのびのびと安心して生きられなかった苦しみや辛さなどを言葉にして誰かと分かち合うこと、そして、自分が「生きていても良い」と思える大きな一助となるのが、「働ける」「誰かの役に立てる」ことでもあります。「ゆずりは工房」は、そのような境遇にある人たちに、お互いの苦しみや悲しみを分かち合う場所を提供しています。今年度は、年間43回開催し、延べ288名が参加しました。	

すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現を目指しています	
認定特定非営利活動法人 キッズドア https://kidsdoor.net/	
《活動報告》 第22期のご寄付は、全国の大学進学を目指す高校生のためのオンライン学習会での支援ツールに活用させていただきました。高校卒業後の進路において大学進学率が向上している中、困窮世帯の高校生は予備校に通うことも難しい状況です。現在の大学進学では学力はもちろんですが、情報と戦略が必要不可欠です。複雑化する入試制度を理解しどのように準備していくかは、予備校に通っている子たちとの間で大きな格差となります。キッズドアでは全国の困窮世帯の大学進学を目指している高校生へ向けて募集を行い、オンラインによる学習支援で高校生に受験まで伴走しています。現在約100人の登録生徒がおり、全国各所からオンラインで繋がり大学進学に向けての取り組みをしています。いただいたご寄付で導入したシステムは、生徒の学習状況や志望大学までの目標達成度合いを可視化できるツールです。このツールを利用して受験戦略を立てることもでき適切な指導ができるようになりました。温かいご支援に感謝いたします。	

子どもの虐待防止に取り組む専門の民間相談機関

社会福祉法人
子どもの虐待防止センター

<https://www.ccap.or.jp/>



《活動報告》

日頃より温かいご支援を賜りましてありがとうございます。

今期のご支援は、活動の柱である相談事業に参加するボランティアの活動に活用させて頂きました。ホームページのリニューアルの効果もあり、コロナ禍を経て、「子どもを叩いてしまった」「子どもがかわいく思えない」などをキーワードに、初めて相談を利用される方も増加傾向にあり、昨年度の相談件数は2,625件となりました。また母親グループ「MCG(母と子の関係を考える会)」にも新たな問い合わせが入っています。当法人の電話相談やMCGなどの事業は、研修を受けたボランティアが臨床心理士や行政経験のある専門職のサポートを受けながら対応に当たっています。各事業に従事するために行う研修にもご支援を活用し、延べ500名が参加することができました。

皆様のご支援の下、これからも相談を寄せて下さるお一人お一人に寄り添う丁寧な活動に努めて参ります。ありがとうございます。

自然環境の復元と、ヒトが心豊かに暮らせる地域社会の創造

認定特定非営利活動法人
自然環境復元協会

<https://narec.or.jp/>



《活動報告》

ご支援いただいたご寄付は、レンジャーズプロジェクトの活動の維持・促進のために役立させていただきました。レンジャーズリーダー研修会の開催などリーダーの育成・登用、また、ホームページやSNSによる、活動地やボランティアの募集といった活動拡大のための広報活動に活用いたしました。安全管理や活動体制の強化を図り、参加機会の増加や、ボランティア登録者数の増員に繋げることができました。

今年度は、新規の活動場所を2か所追加し、年間で423名のボランティアの方々参加を得て、東京・埼玉・神奈川・大阪の各所で計43回の活動を行うことができました。また、ボランティア登録者数も4,733名にまで増やすことができました。

今後も、多様な生き物と共に暮らす社会の実現に向け、「身近な自然環境を復元すること。」「自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。」を目指し、活動に邁進いたします。皆様のご協力とご支援に法人一同心より感謝申し上げます。

自然とともに生きる社会づくりの推進

特定非営利活動法人
樹木・環境ネットワーク協会
[愛称：聚(しゅう)]

<https://www.shu.or.jp/>



《活動報告》

2022年度においては、コロナ禍以前の保全活動をほぼ再開し、活動も活発になりました。反面、雑木林ではナラ枯れという突然樹木が枯死する現象が多発し、その対応に追われた年でもありました。枯死自体は社会的にも大きな問題となりましたが、私どもとしては、森の再生の一端ととらえ、整備・保全活動を進めています。また、自然観察会や子どもの自然体験活動も再開し季節ごとに実施することができました。

グリーンセイバー資格検定では、CBT試験を採用し、全国的に受験が可能となりました。受験者としては思うような結果を得ることが出来ず、CBT方式との関係性、広報の課題等を分析し、今後の対策を検討中です。

人材育成の一環で行っている「里山林塾」では、里山の整備活動を学ぶだけでなく、利活用や楽しみを実現する活動としても展開をしています。養蜂や休耕田の開墾など、興味のある分野でお互いに学びながら里山を活かし、自然を豊かにしていくものとして期待しています。

ママが元気になれば子どももしあわせに！
シングルマザーが子どもといっしょに生き生き楽しく生きられるように、
ママを勇気づけ、社会で活躍できる支援を行っています

認定特定非営利活動法人
しんぐるまざあず・ふぉーらむ
<https://www.single-mama.com>



《活動報告》

第22期のご寄付は相談業務に活用させていただきました。しんぐるまざあず・ふぉーらむの2022年度の相談受付件数は、メール946件、電話925件でした。コロナ禍で相談が急増した2020年度からは4割減ですが、2021年度からはほぼ横ばいで、コロナ禍以前と比べると2倍以上に増加したままの状態です。

コロナ禍による離職や失職などで経済的困窮に陥ったひとり親が多い中、昨春以降の物価高がさらに生活の厳しさに拍車をかけました。当団体のひとり親家庭調査で「主食の米が買えないことがあった」が56%など、衣食住を欠く状況が広がっています。子どもの不登校や障がい、親の介護など、家族の事情を抱える人も少なくありません。相談者の気持ちを受容し孤立をやわらげつつ、当団体の食料支援につなげたり、地元の支援団体や社会福祉協議会などにつなげたりと、「一人も取りこぼさない」ことに心を砕きました。LINEでの相談も2年目に入り、若いママたちとの連絡手段として有効に活用しています。

障害者クライミング普及活動を通じて、
多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指しています

特定非営利活動法人
モンキーマジック
<https://www.monkeymagic.or.jp>



《活動報告》

第22期のご寄付は、弊会の障害者クライミング普及活動のノウハウを日本全国に共有し、クライミングを通じた地域コミュニティ創造のため、日本各地の有志によるクライミングサークルの支援に充てさせていただきました。

クライミングサークルを「全国交流型クライミングイベント」と題して、各地で主催者と教育・医療関係者を繋ぎ、イベントの基盤づくりを行いました。

現在、北は北海道から南は沖縄まで、全国18地域(札幌・函館・富山・山梨・愛知・京都・大阪・島根・岡山・広島・徳島・高知・福岡・熊本・鳥取・北九州・宮崎・沖縄)に拡大することができました。

今後も外出機会の少ない障害当事者に向けて、スポーツの選択肢を広げ、社会参加、健康寿命の延伸に寄与します。そして障害者と健常者の相互理解を深め、多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指します。

全国47都道府県での展開を目指して、今後も人々の可能性を大きく広げることを目的として活動に邁進いたします。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。